



▲火星のほかにも金星、木星、土星を  
観察することができました。

## 大接近した火星を観察

年間を通じて体験活動に取り組む「やすぎ子ども探検隊」の火星観察会を7月31日、安来運動公園で行いました。この日は15年ぶりに火星が大接近する日。また、星空が広がる絶好の観察日和でした。

はじめに、「安来星の会」の家嶋会長が火星の特徴などを解説。その後、参加した約70人は3基の天体望遠鏡に分かれて歓声をあげながらレンズをのぞき込んでいました。

親子5人で参加した井澤翔さん（3年生）は「火星を見るのは初めてです。全体が薄いオレンジ色に見えました。下の方は白っぽく見えた」と話してくれました。



## 能鑑賞の体験型セミナーを開催

9月に開催する能公演を前に、所作や装束の説明、演目の解説などを行う事前体験型セミナーを7月29日、総合文化ホールで開催しました。能は世界最古と言われる舞台芸能。約650年にもわたり当時のまま伝えられ、難解な面があります。今回のセミナーでは、本番前に能への関心や理解を深めてもらい、公演をより一層楽しんでもらおうと企画しま



まちの話題や出来事をご紹介します



7月25日、母里夏祭り。元気な子どもたちの神輿が母里のまちを練り歩きました。ワッショイ、ワッショイのかけ声が暑さを吹き飛ばします。

今月の一枚



◀「能面」について解説する浦田さん。  
「能面には魂が宿っています」

した。

講師はシテ方で重要無形文化財総合指定保持者の浦田保親さん。能は、仮面劇・音楽劇・扮装劇・歌舞劇・詩劇の5つの側面があると話し、「無駄を省いた動きで、客の心の中に表現するのが能の特徴」と解説していました。

また、浦田さんは「9月に総合文化ホールアルテピアで行う公演は、能楽堂にはない演出を考えています。ご期待ください」と話していました。

▼安来市総合文化ホール・開館1周年記念事業  
能と神楽の競演「紅葉狩」

9月30日(日)14時開演、全席指定(発売中)



◀新しい神輿と法被を披露しながら歩く参加者の皆さん。

## 力を合わせてわっしょい

7月23日・24日に大塚交流センター周辺で行われた大塚文化祭と秋葉さん。花火大会や子ども神輿が行われ、多くの方が夏の風物詩を楽しんでいました。

今年は宝くじのコミュニティ助成金を使い、神輿1台と法被等を新調。大塚交流センター岡屋館長は「新しい神輿で地域がにぎわってくると良い。来年からも多くの人に参加してほしい」と話していました。

※宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源に実施している助成事業です。



## 小学生が1日だけ消防士に

消防士の仕事を知ってもらうため、1日消防署体験学習を8月4日、市消防署で開催しました。当日は市内の小学生55人が参加し、放水やロープ渡り、消化器訓練などを体験。実物のはしご車や器具を前にした児童は目を輝かせていました。応急手当などの訓練も受け、いざというときの対応もしっかり学びました。



▲ロープ渡りは地上7メートルの高さです。

全ての学習が終わり修了証が手渡されると参加者は誇らしそうに眺めていました。

初めて参加した長谷川ひより(安田小3年)さんは「放水が少し難しかったけど楽しかった。消防士の人はカッコよかった」と話していました。

## 比田の夏を楽しむフェスタ

比田地域と地元の特産品をPRしようと、7月15日に夏イチゴの日として、「えーひだサマーフェスタ」が比田いきいき交流館周辺で行われました。会場に並んだのは、比田の食材を使ったカレーやピザ、かき氷などのブース。近くの川で遊ぶ子どもたちの楽しそうな声が響く中、多くの方が比田の味覚を味わいました。

イチゴハウスでは収穫体験が行われ、参加者は赤く実ったイチゴを笑顔で手に採っていました。初めて夏イチゴ狩りをした山元菜々子さん(24歳)は「この時期にイチゴ狩りができるのは珍しいので、とても楽しいです」と話していました。



◀夏イチゴ狩りができるのはサマーフェスタの日限定です。



▲たくさんの方が軒先で神輿を出迎えていました。

## 夏本番を告げるひろせ祇園祭

県内の三大夏祭りの一つと言われるひろせ祇園祭が7月21日に広瀬町広瀬地内で行われました。まちを盛り上げたのは伝統の神輿巡幸。18時に八幡町を出発した神輿は、自治会ごとに交代で担ぎ、無病息災を願います。神輿の重さは約1.3トン。担ぎ手は、威勢の良いかけ声に合わせて広瀬の城下町を練り歩きました。

9月には広瀬町を舞台に全国山城サミット安来大会戦国尼子フェスティバル等が開催されます。祇園祭を皮切りに、暑いシーズンが幕開けしました。